

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 工業・商業系列等を持つ総合学科として、多様な進路実現を可能にし、生徒が夢を実現できる学校、地域・保護者から厚く信頼される学校をめざす。
1. 「探そう 東総 明日の自分！」をキーワードとしてキャリア教育・職業教育を力強く推進する学校。
  2. 「基礎的・基本的な知識・技能の習得と主体的な活用」を目標に授業で鍛える学校。
  3. 「よりよい社会を切り拓いていく人間」をめざし、学校・家庭・地域等と連携し、一人ひとりを大切に、多様な他者との共有を図り、教育活動を展開する学校。
  4. 「目標達成に向け意欲的に取り組む学校運営体制」を確立し、府民の期待に応えられる学校。
- ★ めざす生徒像：「価値観の異なる多様な他者と調整しながら課題解決に向けて実行できる生徒」

## 2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現
  - (1) 総合学科の特長を生かした系列の編成と実業教育・キャリア教育を推進し、3年間の学びで総合的な学力を育てる。
    - ア、3年間の体系的なキャリア教育プログラムを発展させる。
    - イ、外部人材・外部組織の積極的な活用やインターンシップの拡充により、実業教育の充実に努め、資格取得を促進する。
    - ウ、四年制大学の総合型選抜（AO入試）・学校推薦型選抜（公募制入試）・一般選抜を視野に入れ、進学指導を充実させる。  
\*進路実現については、進路未決定率を引き下げ、令和6年度には0%をめざす。（R1：0.9%、R2：0.9%、R3：0.5%）

4年制大学進学者数を引き上げ、令和6年度には50人以上をめざす。（R1：37名、R2：31名、R3：45名）
  - (2) 学ぶ姿勢を確立し、基礎・基本の習得を中心に「確かな学力」の育成に努めるとともに、その主体的な活用をめざす。
    - ア、情報の入力（読む、聞く）、処理（まとめる：情報の整理、関連づけ、課題発見、課題解決策の提示等）、出力（書く、話す）能力を育成するため、探究活動の推進をはかると共に、「TRYルーム」等を活用し、グループ学習を充実させ、本校のキャリア教育をより進化させる。
    - イ、1人1台端末、オンライン授業を視野に入れたICT等を活用した取り組みの推進。
  - (3) 新学習指導要領の確実な実施：確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現のための「魅力ある授業づくり」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
    - ア、学力向上プロジェクトチーム（GPT）を中心に、本校のめざす授業について考察し、教員相互の授業見学の機会を促進させる。  
\*学校教育自己診断の「学習指導に関する」項目の生徒評価を、令和6年度引き続き75%以上にする。（R1：72.7%、R2：75.2%、R3：74.3）
    - イ、資格取得を系列・教科の学習の1つの目標とすることで、将来を見通した学力を育成し進路実現につなげる。資格取得プロジェクトチーム（SPT）を中心に、多様な資格の情報を提供し資格取得のための講習や補講を行う。  
\*ボランティア、インターンシップ等の学外活動と3年間の資格取得者の割合を増やし、令和6年度引き続き75%以上にする。  
（R1：68.0%、R2：69.6%、R3：76.6）
- 2 社会とつながる力の育成
  - (1) あいさつ、服装、遅刻、清掃などの指導に全教員で取り組み、基本的生活習慣を確立させ、規範意識を育む。
  - (2) 体育祭・文化祭等の行事を通して、クラス活動や各種委員会活動で生徒会活動の活性化をはかる。
  - (3) 部活動の種類と質を充実させるとともに、地域行事、学校説明会・オープンスクール等でのボランティア活動の機会を増やし、生徒力のより一層の活性化をはかる。
    - ア、部活動活性化プロジェクトチーム（BPT）を中心に、部活動の活性化をはかり、地域の行事等に積極的に参加する。  
\*令和6年度までの3年間、引き続き中退率を1.0%以下にする。（R1：6名・0.9%、R2：7名・1.0%、R3：0.3%）  
\*部活動加入率を増やし、令和6年度には50%にする。（R1：46.4%、R2：49.3%、R3：46.5%）
  - (4) 道徳教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して、道徳教育、人権教育を推進する。
  - (5) 国際交流の推進
    - ア、「よりよい社会を切り拓いていく人間」をめざし、SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえ、多様な価値観を持つ他者と調整しながら物事を前に進める力（他者共有力）を育成するため、韓国をはじめとした諸外国との学校交流を推進する。
- 3 地域連携と広報活動の充実
  - (1) 保護者面談や適宜の家庭訪問によって家庭との日常的な信頼関係を築くとともに、保護者メール等によって学校情報の確実な伝達をめざす。
  - (2) 中学校教員対象説明会や中学校訪問により生徒情報を把握し指導に生かすとともに、平野区や子供相談センター等と連携し生徒の就学保障につとめる。
  - (3) ホームページの更新、オープンスクール等の充実、近隣の小中学校への出前授業の実施等により、学校の情報や魅力の発信に努める。
  - (4) 地域公開講座・PTAバザー等を継続して実施し、地域行事等への教職員と生徒の参加を積極的に支援する。
    - ア、広報プロジェクトチーム（KPT）を中心にし、中学校の教員、中学生、保護者や地域への効果的な広報活動について見直し、検討する。  
\*学校説明会・オープンスクールへの参加者を増やし、令和6年度には、700名をめざす。（R1：597名、R2：677名、R3：－）
- 4 生徒を支える校内体制の充実
  - (1) 首席連絡会や運営委員会、職員会議等の各種会議の連携を強化し、分掌・学年が情報を共有、協力して迅速に課題解決にあたることのできる体制を整える。  
\*学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価を増やし、令和6年度には70%にする。  
（R1：46.8%、R2：57.9%、R3：53.7%）
  - (2) 支援教育コーディネーターを軸に、SCや支援教育サポート校等と教育相談・生徒支援委員会等との連携をはかり、生徒を組織的に支援する。  
\*学校教育自己診断「教育相談に関する項目」の生徒肯定率を引き続き70%以上にする。（R1：69.4%、R2：71.0%、R3：73.3）
  - (3) 自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり（生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに）を全教職員が意識する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b>  ○「学習指導」「生徒指導」「自主活動」「進路指導」「教育相談」についてすべての項目で生徒の肯定的回答割合は増加した。  ・「人権教育」については、昨年度大幅に増加し、今年度も全て高い数値。  ・特に増加ポイントの高かったのは、次の2項目。  ・「授業はわかりやすく楽しい」の項目について、肯定的回答割合は11.5ポイント増加し、69.8%。  ・「教え方に工夫している先生が多い」の項目について、同じく9.5ポイント増加し81.9%であった。(目標値達成)  ○他の目標値も全ての項目で達成した。以下。  ・「学習指導」：7.0ポイント増加、81.3%。(目標値70.0%)  ・「基本的習慣の確立」：1.4ポイント増加、83.9%。(目標値77.0%)  ・「積極的な部活動」：2.4ポイント増加、65.1%。(目標値65.0%)  ・「文化祭・体育祭の工夫」：4.0ポイント増加、87.0%。(目標値80.0%)  ・「生徒会の活発さ」：3.2ポイント増加、77.1%。(目標値70.0%)  ・「豊かな心や人の生き方」：83.2%。(目標値73.0%)</p> <p>日頃から教育相談室と保健室の連携を図るとともに、教育相談支援委員会を月1回開催(SC同席)し、生徒を支援したことと年次主任会議に養護教諭を加え、月2回の開催を毎週開催に変更したことや、一人ひとりの先生方が生徒の気持ちに寄り添いながら、親身になって対応したことが生徒の肯定率の増加につながったと思われる。</p> <p><b>【教職員】</b>  ○肯定的回答割合が大きく増加した項目は、以下。  ・「学校行事の工夫・改善」：14.0ポイント増加、93.6%。  ・「教職員の相互理解、信頼関係」  ：11.6ポイント増加、74.5%。(目標値70.0%。達成)  ・「SNS人権侵害や性的マイノリティなど現代的課題への対応」  ：10.5ポイント増加、80.8%。  ○上記以外に目標値を達成した項目。以下。  ・「経験の少ない教職員への体制」：63.6%。(目標値60.0%)  ・「体系的なキャリア教育」：5.5ポイント増加、85.1%。(目標値80.0%)  ・「保護者・地域と接する機会」：8.2ポイント増加、91.5%。  (目標値85.0%)  ・「PTA活動への参加」：49.0%。(目標値45.0%)  ○肯定的回答割合が大きく減少した項目は、以下。  ・「この学校の教育活動には他の学校にない特色がある」  ：16.5ポイント減少、72.4%。  ○目標値を達成できなかった項目。以下。  ・「各分掌や各学年間の連携と有機的機能」  ：6.9ポイント減少、46.8%。(目標値60.0%)  ・「計画的な校内研修の実施」  ：7.0ポイント減少、72.3%。(目標値80.0%)  ・「他の授業の見学機会」：9.1ポイント減少、72.3%。(目標値80.0%)</p> <p>「学校行事の工夫・改善」をはじめポイントが増加した項目は、担当の部署・教職員の尽力によるものである。また「教職員の相互理解、信頼関係」がR2より21.9ポイントも増加してきたのは嬉しい限りである。</p> <p>「各分掌や各学年間の連携と有機的機能」は本校の課題である。教職員の相互理解と信頼関係が高まって来たので、本校の課題に対して教職員の自律性・自主性・主体性を尊重しつつ、共通了解・共通了承・合意形成をはかるための行動としての協力や調整、調和文化の醸成に教職員を参画させ、自ら実行する経験を積み上げるよう支援していく。</p> <p>「校内研修や授業見学機会」については、昨年度・今年度は「観点別学習状況の評価」の研修に重きを置いたので、来年度からは従来の「授業改善」「授業見学」も視野に入れるとともに、校内研修については他の研修も含め、年度当初から計画を立てるよう支援していく。</p> <p>「教育活動の特色」については昨年度88.9%と高く、16.5ポイント減少した原因については引き続き分析していく。</p> <p><b>【保護者】</b>  ・「授業参観・学校行事への参加」  0.6ポイント減少、36.7%。(目標値62.0%)</p> <p>コロナ禍により年2回の公開授業週間が実施できなかったことと、学校行事への参加については人数制限があったことなどが考えられる。来年度は教育活動に制限はないので、公開授業週間の実施と人数制限を撤廃したい。</p>	<p>第1回(9/22)  ○学校の現状について  ・今年文化祭も体育祭も行うんですね。なぜ遅刻が増えたのか。休校で行きたくてもいけない日があったことの影響があるのか。  ⇒色々な理由があると思うが、就職や進学で頑張っている。  ・就職の面接も含めて子供は学校が楽しいと言っている。家庭の事情でアルバイトをしなければいけない生徒もいると思うが、アルバイトと遅刻・部活動の加入率の関係はどうなっているか気になる。  ・引き続き、PTA活動に協力をよろしくお願いしたい。  ・コロナで生徒の姿が見えない時は、地域として寂しかった。東総は、この地域にしっかり根付いていると思う。  ・本校の生徒(中学)をたくさん受け入れていただいて感謝している。生徒は、楽しく通っている。校則についてだが、「ツーブロック」を校則で禁止しているか。受験するときには生徒は校則を気にしている。  ⇒「ツーブロック」がダメという規定はないが奇抜な髪形は禁止している。生徒に自ら考えさせたい。髪の毛を染めることやパーマ禁止は厳しく指導している。  ・進学・就職の指導の熱心さがうかがえる。大学にもいい生徒が欲しい。もともと工業高校だったが、特に就職・進学にこだわらず今の時代は、生徒に合わせて指導してゆく必要がある。  ・今の子供は、将来に対して不安を持っている。動画配信サービスに影響されやすい。  ・若い人と仕事をすると言われたことをきちんとするが、自分の責任がどうかを気にする。相互扶助の気持ちが乏しい。伝心力・コミュニケーション力の弱さを感じる。責任を回避する方法をネットで調べ、ハラスメント等にも詳しい。もっと視野を広げてほしい。挨拶一つについても損得勘定を気にする。自信のなさを感じる。  ・意外に若い人はもっと叱ってほしいと思っている。先生方も、今、大変だと思う。  ・遅刻については、全体的に登校時間が遅くなって、生活のリズムが崩れたかもしれない。</p> <p>第2回(10/24)  ○授業を見学して  ・全体的に取り組む姿勢が前向きだった。うつむいている生徒はいなかった。  ・教員と生徒の熱心な取り組みがよかった。  ・他の教室で行っていたディベートも見学したかった。  ・先生の飽きさせない努力を感じた。  ・現代は、時代の動きが早く大変である。会社のPRにも動画を作る必要がある。そういう時代なので、会社も同様だが、教員の真価が問われる。  ・6限めであるのに集中力を持続させている。  ・総合学科ならではの多様性が生かされている。  ・コンピュータ化・機械化が進む中で手作業の大切さを感じた。(機械実習)  ・実習を行っている工場の見学がよかった。(機械実習)  ・今は、全部コンピュータ化されているが、本物になるためには、手作りの基礎が必要。(機械実習)  ・文書の意味や考え方も学んでいた。(書道)  ・全員で取り組んでいて、しんどくて取り組まない生徒がいなかった。(書道)  ・生徒が起立して音読した意図  ⇒場面展開を取り入れている。アクティブな発声が習慣化されている。(英語)  ・国連スピーチを授業に取り入れて、最後に実際の映像を見せていたことが、大変良かった。(英語)  ・国連スピーチを取り上げ大変良かったが、ビデオは、英語で流して日本語字幕をつける方法が効果的でないか。(英語)  ・環境問題を考える教科横断的な取り組みがよかった。(英語)</p> <p>第3回(2/20)  ・報告を聞いて、しっかりやっけていただいていると思う。  ・体育祭・文化祭・修学旅行等の行事ができてよかった。  ・コロナ禍の中、生徒が何を求めているかを考え、文化祭・体育祭の両方を工夫して実施されたことは大変良かったと思う。  ・学校教育自己診断の分析等アンケートの分析は大変だったと思うが、生徒・保護者・教職員の意見をくみ取る手段としては、有効活用されていると感じた。  ・ヤングケアラーについての対応はどうされているのか。  ⇒令和5年度はSSW(スクールソーシャルワーカー)の配置を考えている。SSWは1回6時間、年間10から30回程度の派遣がされるもの。SSWは、生徒や保護者と面談をし、課題を明らかにして見立て、関係機関へつないでゆく役割。教育庁作成の活動事例集を参考に对应していく予定。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現	(1) キャリア教育の推進 ア、体系的キャリア教育プログラムの充実	(1) キャリア教育の推進 ア・「TRYルーム」をキャリア教育の拠点とし、キャリア教育プログラムの取り組みを一層充実させ、生徒の進路意識の早期の向上に努める。 ・学校マネジメント予算等を活用し、フィールドコア平野をはじめ地元企業などの外部人材と連携した、キャリア教育を実践し、進路指導を充実させる。 ・「電気技術系列」のあり方を系列長を軸に模索し、キャリア教育の推進をはかる。	(1) ア・学校教育自己診断「系統的なキャリア教育を行っている」の項目教職員の肯定率を引き続き80%以上を維持する。[79.6%] ・就職一次試験の内定率の70%以上を維持する。[77.4%] ・進路未決定率を3.5%以下維持。[0.5%]	(1) ア・地域企業などの外部人材と連携したキャリア教育により、肯定率は85.1%。生徒肯定率も89.7%に上昇した。(◎) ・コロナ禍であるが実業系の就職が強く、一次内定率は88.0%に上昇した。(◎) ・「電気技術系列」の名称は残し、カリキュラム内容を検討中。 ・進路未決定率は、0.9%。(◎)
	イ、資格取得の促進と実業教育の充実	イ・資格取得を系列・教科の学習の1つの目標とし、資格取得プロジェクトチーム(SPT)を中心に、多様な資格の情報を提供し、長期休業中等を活用した資格取得のための補習・講習をさらに充実させ、質の高い資格に挑戦させる。	イ・ボランティア、インターシップ等の学外活動と3年間の資格取得者の割合を引き続き、75%以上にする。[76.6%]	イ・128名・56.9%。(△) ※コロナ禍
	ウ、進学指導の充実	ウ・総合型選抜(AO入試)・学校推薦型選抜(公募制入試)・一般選抜を視野に入れ、「英数系列」のあり方を系列長を軸に模索し、生徒に対する講習を充実させながら、進学指導を拡充させる。 ・学力向上プロジェクトチーム(GPT)等を中心に放課後学習、講習等の充実をはかる。 ・「TRYルーム」を講習や放課後自習室として開放することにより、進路実現に導く。 ・教育産業の基礎力診断テスト、模試を各学年全員に実施し、自己の学力の到達度を客観的に知ること、進学意識の向上と受験学力の育成に1年次から取り組ませる。	ウ・中堅大学合格者を含め、四年制大学合格者引き続き45名以上。[45名]	ウ・今年度四年制大学合格者は56名。昨年度より24.0ポイント増加した。総合的な探究の時間βと連動しつつ、オンライン(学習支援クラウドサービス)での進学指導を充実させた。(◎)
	(2) 生徒の学力の現状把握とニーズに合った授業の実践 ア、ICTを活用した授業の推進	(2) 生徒のニーズに合った授業の実践 ア・教育産業による学習動画配信サービス等を活用し生徒の学習習慣の定着をはかる。 ・教育産業による学力分析システム等を活用し、生徒の学力の経年変化を把握する。 ・学力向上プロジェクトチーム(GPT)を中心に、確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びのための実践方法を模索する。 ・SDGsの視点や「探究」を視野に入れた課題研究や主体的・対話的で深い学びを各教科で実践する。 ・ICT機器を有効に活用して授業ができる教員を増やすことで、教材の共有化をはかり、教材研究にかかる時間の短縮をすすめる。「1人1台端末アクションプラン」や「オンライン活用ガイドライン」をもとに生徒の学習を支援し、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせるなど生徒の学びの深化をはかる。 ・年2回の公開授業週間などを活用し、教員相互で授業観察を行い、観察シートを提出する。	(2) ア・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の項目生徒肯定率を引き続き70%以上を維持する。[72.4%]  ・ICT機器を有効に活用して授業ができる教員を引き続き85%以上を維持する。[89.7%] ・教員の相互授業観察件数引き続き50件以上[72件]	(2) ア・主体的・対話的で深い学びを各教科で実践した。「教え方に工夫をしている」の生徒肯定率は81.9%。昨年度より9.5ポイント増加した。(◎) ・3年次の課題研究は、「自由テーマ」と「職業探究」により行い、主体的・対話的で深い学びの実践をはかった。(○) ・ICT機器を有効に活用して授業ができる教員は87.9%。(○) ・オンライン授業の試行の実施(10月) ・教員による授業観察件数は71件。(○)
	イ、政治的教養を育む教育の推進	イ・生徒会と社会科が協力して、授業を組み立て、平野区の選挙管理委員会との連携を図って実践する。	イ・政治的教養をはぐくむ教育を1年次「産業社会と人間」にて実施する。その際、生徒の成果物やアンケート等をふまえ、生徒の深い学びへと繋げる。	イ・政治的教養を育む教育は、1年次「産業社会と人間」にて実施。政権ポスターや生徒のアイデアには斬新なものもあり、政治に対する興味・関心を高め、深い学びとなっている。(◎)
	ウ、芸術系3科目合同卒業制作発表会の実施	ウ・音楽Ⅲ、美術Ⅲ、書道Ⅲ選択者合同の卒業制作発表会を通して、主体的・対話的で深い学びを実践する。	ウ・発表会後の事後アンケート「生徒満足度」の項目生徒肯定率90%以上。[98.8%]	ウ・「生徒満足度」の生徒肯定率97.0%。今年度は音楽Ⅲ選択者がいないため2科目で実施(◎)
	エ、「新学習指導要領」の内容の教職員への周知と「観点別学習状況の評価」の実施	エ・新学習指導要領の理念の1つである育成すべき資質・能力の三つの柱を意識した「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の学習状況の評価の充実を進めるとともに指導と評価の一体化の観点からPDCAサイクルによる授業改善を進める。	エ・3観点の学習状況の評価を中心とした授業改善に関する校内研修を年間1回以上実施する。	エ・校内研修により各教科での実践例を校内研修で共有した。(○)

## 府立東住吉総合高等学校

	<p>(3)「魅力ある授業づくり」をめざした授業改善 ア、授業アンケートの有効活用</p> <p>イ、教育内容の充実</p>	<p>(3)「魅力ある授業」をめざした授業改善 ア・年2回の授業アンケートを実施し、授業見学をもとに授業改善に取り組む。</p> <p>イ・学力向上プロジェクトチーム(GPT)を中心に、ICTの活用や主体的・対話的で深い学びの実践などに関する校内研修を計画して教員同士の授業観察を促進し授業改善に取り組む。</p>	<p>(3) ア・<u>学校教育自己診断「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」の項目教職員の肯定率を引き続き 80%以上を維持する。[81.4%]</u></p> <p>イ・授業アンケートの平均値を引き続き 3.30 以上を維持する。 [3.35]</p>	<p>(3) ア・「授業を見学する機会がある」の教職員肯定率は 72.3%。(△)</p> <p>イ・GPTを中心に「観点別学習状況の評価のあり方・授業づくり」研修及び授業見学意見交換会等を実施したこと等で、授業アンケートの平均値は第1回が 3.42、第2回が 3.36 で平均値が 3.39。(◎) 引き続き校内研修の充実を図る。</p>
2 社会とつながる力の育成	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ア、生徒指導部を中核とした指導体制の充実</p> <p>(2) 生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア、体育祭、文化祭実行委員会の活性化</p> <p>(3) 部活動の充実 ア、部活動の活性化に向けた取り組み推進</p> <p>(4) 人権教育と道徳教育の推進</p> <p>(5) 国際交流の推進</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ア・年度初めに、校内で統一した指導体制を再確認する。 ・遅刻指導・頭髪指導は年間を通して計画的に実施する。 ・遅刻者への早朝指導、放課後指導の中で、「時間の大切さ」を自覚させ、遅刻常習者を減少させる。 ・清掃指導を充実させ、生徒の清掃当番を確立し校内美化に努める。</p> <p>(2) 生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア・生徒会部創設以来、進化をとげてきた生徒の自主性を尊重し改善を加えながら、さらによりよい活動・行事へと発展させる。 ・体育祭・文化祭については生徒の主体性を喚起しつつ、地域への一般公開を実施する。 ・生徒の各種委員会の活性化をはかる。 ・学校行事への生徒サポーターの参加を促進する。</p> <p>(3) 部活動の充実 ア・部活動活性化プロジェクトチーム(BPT)を中心に、体験入部、部活動の活動や発表の「見える化」、運動部の中学生向け「東総カップ」、合同部活動・練習など、本校の部活動について検討し、<u>部活動動画の充実を図る。</u> ・本校HPへ部活動の活動状況の更新を迅速にする。 ・部活動活動方針に則り活動を行う。</p> <p>(4) 人権教育と道徳教育の推進 ・道徳教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して多様な手法により人権ホームルーム等の充実をはかり、人間としての在り方生き方についての考えを広める。</p> <p>(5) 国際交流の推進 ・韓国をはじめとした諸外国との学校交流を推進する。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻総数 2000 件未満。 [1701 件] ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣について」の項目生徒肯定率 77%以上。[82.5%]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の生徒肯定率を引き続き 70%以上を維持する。[73.9%] ・文化祭、体育祭に関する生徒肯定率を引き続き 80%以上を維持する。[83.0%]</p> <p>(3) ア・部活動加入率 50%以上 [46.5%] ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率 65%以上。[62.7%]</p> <p>(4) ・「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率を引き続き 73%以上を維持する。 [85.0%]</p> <p>(5) ・学校交流後の事後アンケート「生徒満足度」の項目生徒肯定率 80%以上。[94.0%]</p>	<p>(1) ア・今年度 2213 件。欠席も増加 コロナ禍の影響等、原因分析中。 (△) ・「基本的な生活習慣」に関する生徒肯定率 83.9%に上昇した。 (◎) 引き続き、年次と連携し年次間で統一した指導の充実を図る。</p> <p>(2) ア・生徒活動についての生徒肯定率は 77.1%に上昇。(◎) ・生徒の主体性を重視した体育祭・文化祭の生徒肯定率は、87.0%。(◎)</p> <p>(3) ア・部活動加入率は 47.1%。(△) ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率は 65.1%で目標値を達成した。(○) ・部活動動画は 4 部追加。</p> <p>(4) ・「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率は 83.2%。(○)</p> <p>(5) ・学校交流後の事後アンケート「生徒満足度」の項目生徒肯定率は 91.7%。(○)</p>
3 地域連携と広報活動の充実	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係をつくる</p> <p>(2) 中高連携と関係機関との連携を強める</p>	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係の構築 ア・学校情報の保護者へのスムーズな伝達に努め、保護者の理解と協力を仰ぐ。 ・学校HPにあるPTA専用のタブや<u>保護者メール</u>等を活用し、授業参観、学校行事、PTA行事等の保護者向けの情報の発信を迅速に行う。 ・教職員のPTA活動への参加を促す。</p> <p>(2) 中高連携と関係機関との連携強化 ア・クラブ交流等を通して、地元の中学校との連携を促進する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者肯定率 62%以上 [37.3%。*コロナ] ・「教職員はPTA活動に参加している」の項目教職員肯定率を引き続き 45%以上を維持する。[51.9%]</p> <p>(2) ア・クラブ交流等の回数を引き続き 35 件以上に維持する。 [中止。*コロナ]</p>	<p>(1) ア・HP、PTA通信、保護者メールシステム等により学校情報の保護者への伝達に力を注いだ。授業参観・学校行事への参加に対する保護者肯定率は 36.7%。コロナ禍により年2回の公開授業週間が実施できず。(△) ・「教職員はPTA活動に参加している」の項目教職員肯定率は 49.0%。(○)</p> <p>(2) ア・クラブ交流の回数は 13 回。(△)</p>

府立東住吉総合高等学校

	<p>(3) 学校の情報や魅力の発信</p> <p>(4) 地域連携の充実</p>	<p>イ・中学校教員への出前説明会を広める。</p> <p>ウ・生徒主体の学校説明会、オープンスクール等の充実。</p> <p>(3) 学校の情報や魅力の発信 ア・ホームページによる学校の魅力の発信。 ・各分掌に配置した広報担当によるホームページの更新をすすめる、学校情報の迅速な発信を行う。  ・広報プロジェクトチーム(KPT)を中心に、QRコードを活用した学校情報の発信について検討する。</p> <p>(4) 地域連携の充実 ア・喜連西地域活動協議会と情報を共有する。 ・平野区との連携事業「ひらの青春生活応援事業」等に取り組み、平野区長と平野区内府立高校の意見交換会に年2回参加する。 ・喜連西小サマーキャンプ、喜連西納涼盆踊り黄昏コンサート、地域公開講座、産業交流フェア等へ生徒を参画させ、PTA活動等とともに地域連携を積極的に支援する。</p>	<p>イ・出前説明会を年間2回実施。</p> <p>ウ・生徒主体の学校説明会やオープンスクールを年4回実施。</p> <p>(3) ア・学校説明会等参加者を引き続き650名以上を維持する。 [参加者延べ420名。第2、3回中止 ※コロナ]</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断「地域連携」の項目教職員肯定率85%以上維持。[83.3%]</p>	<p>イ・中学校への出前説明会を年間2回実施し、中高の連携の土台作りを行った。(○)</p> <p>ウ・生徒主体の学校説明会やオープンスクールを年4回実施し、生徒の自主性の向上を図るとともに、地域との連携を図った。(○)</p> <p>(3) ア・校長ブログ件数65件。 ・KPTを中心に学校紹介DVDを刷新した。今年度学校説明会等参加者は665名。(○)</p> <p>(4) ア・地域連携に関する教職員肯定率91.5%。(◎) ・喜連西小イベント、地域公開講座等へ参加する本校ボランティア生徒多数。</p>
<p>4 生徒を支える校内体制の充実</p>	<p>(1) 全校的な指導体制をつくる ア、情報の共有化、見える化</p> <p>イ、労働安全衛生管理体制の充実</p> <p>(2) 個々の生徒への支援体制の強化 ア、教育相談体制の充実と各種会議との連携</p> <p>イ、生徒の安全・安心の確保</p>	<p>(1) 全校的な指導体制の構築 ア・首席会議、年次主任会、分掌会議を定例化し、分掌業務において、分掌主導で情報を共有し年次間の足並みをそろえた指導をおこなう。 ・<u>養護教諭参画の年次主任会の週1回開催定例化。</u> ・各種会議内での意思決定のあり方、各分掌と学年との連携などを意識し、主体的・能動的に教育活動を行う。 ・校内共有フォルダに各会議の記録をアップし、全教職員が閲覧できるようにする。</p> <p>イ・<u>特定の教職員に過度な負担がかからないよう外部人材や外部機関を有効に活用し、組織的に対応する。</u></p> <p>(2) 個々の生徒への支援体制の強化 ア・高校生活支援カードを活用し、SCと連携した月1回の教育相談・生徒支援委員会により生徒を支援する。 ・<u>貧困、虐待、ヤングケアラー等の生徒の状況について教職員が理解を深め、外部機関と連携し組織的に生徒を支援する。</u> ・<u>配慮を要する生徒の対応については支援教育サポート校と連携し組織的に対応する。</u> ・他校の実践を取り入れ、常駐体制を整備する。 ・人権侵害事象対策会議、いじめ対策会議等との情報共有を行い、学校全体で生徒を支援する。 ・遅刻・欠席・いじめ、新型コロナウイルスへの不安等、生徒の状況については迅速に関係者会議等を開催し情報を共有しながら組織として生徒を支援する。</p> <p>イ・新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら教育活動を工夫し、学びを保障する。 ・PCR検査受診者情報の共有と保健所等との綿密な連携。 ・自然災害等に備えた防犯及び防災計画の策定。 ・AED講習、食物アレルギー(エビペン含む)研修の充実。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員肯定率60%以上。[53.7%]</p> <p>イ・時間外勤務月45時間以上の職員をR1比10%減らす。(R3はコロナの影響あり) [延べ88名。46.3%減]</p> <p>(2) ア・中退率1.0%以下。 [2名、0.3%] ・教育相談に関する生徒肯定率を引き続き70%以上に維持する。[73.3%]</p>	<p>(1) ア・「各分掌や各学年間の連携・・・」の項目教職員肯定率46.8%。 コロナ禍によるイレギュラーな対応など各部署間の調整が難しくなったことも一因になったと思われる。(△) ・年次主任会議は2週間に1回開催を毎週開催に変更し、養護教諭も参画することで生徒情報の迅速な共有につなげた。</p> <p>イ・今年度延べ101名、R1比16.0%減 (○) ・教育庁からの外部機関の紹介による教職員の支援の検討を行った。</p> <p>(2) ア・教育相談支援委員会、いじめ対策会議等の各種会議と連携をはかり生徒を支援した。 ・教育庁からの外部機関の紹介による支援を行った。 ・SSWは次年度配置予定。 ・今年度の中退者数は6名、0.9%。(◎) ・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の項目の生徒肯定率は79.4%、教育相談に関する生徒の肯定率は70.3%とともに増加し、2項目の平均値は74.9%。(◎)</p> <p>イ、教育庁との連携による新型コロナウイルス対応、防犯及び防災計画の策定、AED講習、食物アレルギー(エビペン含む)研修を実施した。</p>

## 府立東住吉総合高等学校

ウ、教員力の強化		<p>ウ・自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり(生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに)を全教職員が意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験の少ない教員の学級経営力を高めるために、教務・進路・生徒指導研修やクラスづくり研修等を実施し、教員の資質の向上を図る。</li> <li>・初任者育成チームを結成し、チームで育成する。</li> <li>・学力向上プロジェクトチーム(GPT)等による主体的な研修を計画的に行う。</li> </ul>	<p>ウ・「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の項目の教職員肯定率 70%以上。[62.9%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」の項目教職員肯定率を引き続き 60%以上に維持する。[64.8%]</li> <li>・「計画的に研修が実施されている」の項目の教職員肯定率 80%以上維持。[79.3%]</li> </ul>	<p>ウ・「教職員間の相互理解・・・」の項目の教職員肯定率は 11.6ポイント増加し 74.5%となった。(◎)</p> <p>引き続き、教職員の同僚性を高めるための取組みを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームによる育成を継続し「経験の少ない教職員を・・・」の項目教職員肯定率は 63.8%。(○)</li> <li>・GPTの取組みにより「計画的に研修が実施されている」の項目の教職員肯定率は 72.3%であったが、GPT主催の「観点別学習状況の評価研修」や「教育相談研修」「人権研修」など「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている」の項目の教職員肯定率は、85.1%と高い。(○)</li> </ul>
----------	--	--	---	--